

家族と仕事の幸せのかたち No.7

都内在住のひとり親家庭の方をインタビュー形式でご紹介していきます。
第7回は、目標に向けて踏み出したお二人の方にお話を伺いました。

社会人から看護師へ
大田区にお住いの
Cさん



Cさん (30代後半)

事務職から転身し、現在都立看護学校2年生。看護学校受験を決めてからは、受験準備のかたわら、看護助手も経験し、第一志望の都立看護学校に社会人入試で見事合格。家族は、お母さまと小学2年生のお嬢さん、愛犬2匹。

◆会社都合退職を知ってからのスピード決断

一看護学校はいかがですか。大変と聞きますが…。

社会人経験があったせいか、そこまで厳しいという印象はないですね。私の通っている学校は社会人経験者が半分近くいて、年齢も20代~40代後半と幅広いです。授業は16時半には終わり、娘のお迎えをして、家事が終わるのが22時くらい。その後課題をこなしたり、テスト勉強をしています。看護師はよく「チーム医療」と言われますが、学校でも同じことを言われています。一人では乗り越えられない課題やテスト勉強も手分けして調べ物をしたりして、何とか乗り切っています。年齢的にも新しいことを覚えるたびに前に覚えたことを忘れてしまったり、勉強も難しく理解できないことも多いのですが、毎日楽しく過ごしています。

一充実した日々を送っていらっしゃるそうですね。事務職をなさっていたCさんが看護学校受験にチャレンジされた経緯を教えてください。

看護師という職業自体は、娘を出産したときから頭の片隅にありました。勤務先を会社都合で辞めることになってしまった時に、いろいろと考えたんです。「焦って何でもいから仕事を探してまた同じことになったら…、年齢的にも次は仕事がちゃんとあるのか…、やっぱり専門的で長く働ける仕事がいいな、看護師ってどうなんだろう」って。区役所のひとり親相談窓口でその気持ちを少し話してみたら、専門実践教育訓練給付金など、利用できる制度などをいろいろと調べていただきました。費用面の不安がなくなっただけではなく、育児をしながら学校に行くというイメージももてたことで、これならチャレンジできる!と思ったのです。仕事を辞めなくてはいけないとわかってから約1か月での決断でした。さらに、ハローワークのひとり親担当の方につないでいただき、受験までの間の仕事として看護助手のパートまで見つけてくださったんです。おかげで、受験勉強をしながら現場の雰囲気を感じることができました。

一至れり尽くせりですね。はあと飯田橋に初めて来所されたのもちょうどその頃でしたね。

はい。第一志望が試験科目に小論文がある社会人入試だったので、はあと飯田橋で小論文添削をお願いしました。それまで小論文を書いたことがなかったので、受験願書からすべて指導していただきました。小論文添削は10回以上お願いしたと思います。書き方のコツをつかめると、どんな問題が出てもすらすら書けるようになり、だんだん楽しくなってきました。

第二志望は一般教養の勉強が必要な学校だったのですが、勉強方法もはあと飯田橋で相談して、まずは一番初めの試験である第一志望校の小論文対策に集中することにしました。第二志望の勉強はそれからでも間に合うからと、何としてでも合格したい、必死でした。

◆ご家族の応援を糧にして

一合格されたとき、お子さんはどんな様子でしたか。



私が看護学校に入学する年に娘もちょうど小学校入学となり、ダブルで入学式だったんです。入学式前に引越して友達がいなくて入学式、娘もちょっと不安だろうなと思いました。そんな時期だからこそ娘ときちんと向き合い、これからのことを話しておこうと思いました。「ママはこれから3年間学校に行く。仕事も辞めるし、忙しくなってあまり遊びに連れて行ってあげられないかもしれないし、無理できなくなっちゃうけど大丈夫?」当時6歳だった娘がわかってくれるか心配でしたが、「わかった」と納得してくれました。入学後は私が勉強している時は一緒に隣で宿題をしてくれたり、終わると別の部屋で遊んでいてくれたり、協力してくれます。同居の母は、フルタイムで働いていて朝も私より早いので、協力してもらうのは難しいのですが、たまに実習で遅くなる時はお迎えをお願いしています。

一いろいろな形でご家族の理解と協力があるのですね。はあと通信を読まれている方にメッセージをお願いします。

何か新しいことを始める時って、自分の頭の中だけで考えていてもなかなか一歩が踏み出せなくて、時間だけが過ぎてしまうことがあると思います。でも、一度言葉に出すと、あつという間にどんどん進んでいくんだなと実感しています。私も言葉に出したことで本当にいろいろな方が助けてくださいました。ひとり親だと制限があつて新しいことにチャレンジするのが難しいと思いがちですが、自分だけで頑張らずに周りに上手に頼ることで、できることが増えていくと思います。

インタビューを終えて

はあと飯田橋では毎年看護師を目指す方向けのセミナーを実施しています。Cさんにはそのセミナーでも体験発表をしていただきました。控えめながらも凛としたたたずまいで、心のこもったお話を伺い、一歩踏み出す勇気をいただいた気がします。

小論文を書く力を伸ばせた ことが合格の鍵に

Sさん



Sさん(18歳)

今春、高校を卒業し、約12倍の難関を突破し警視庁の警察官採用試験に見事合格。秋からは警察学校に入校予定。

一はあと飯田橋に来所されたきっかけを教えてください。

もともと母がお世話になったことがあり、はあと飯田橋で「小論文・作文添削」をしていることを知りました。警視庁の試験に作文があるので、少しでも点数がよくなればと思ってお世話になることにしました。試験の半年前くらいのことだったと思います。

一実際に小論文の指導を受けられていかがでしたか。

自分で書いたものを写真に撮ってメール添付で送ったのですが、その都度、添削したものに丁寧な講評をつけていただきました。何度も何度も丁寧に添削していただくうちに、コツがつかめてきて、どんなテーマが出題されても応用して書くことができる気がしてきました。秋に一度不採用となり、年明けの試験でリベンジしたのですが、年末年始ギリギリの時期まで指導していただいたので、諦めずに頑張ることができました。小論文を書く力を伸ばせたことが合格の要因だったと思っています。

一Sさんにとって「はあと飯田橋」の小論文担当はどのような存在でしたか。

まさに恩人だと思っています。私が通っていた高校は進学希望の人が多く、周りに公務員志望の人がいなかったため、なかなか相談できる相手がいませんでした。小論文指導以外にも多くの情報をいただき、最後までフォローしていただきました。

一念願がなくなって本当によかったですね。そもそもSさんはどうして警察官になりたいと思ったのですか。

自分が中学生の頃、家は自営業をしていたのですが、空き巣にあってしまったのです。家族が悲しむ姿を目の当たりにしたことで、犯罪被害にあって悲しむ人を少しでも減らしたい、自分が警察官になって東京の治安を守りたいと思うようになりました。

一いよいよ秋から警察学校で訓練ですね。その後は交番勤務でしょうか。今何か準備はされていますか。

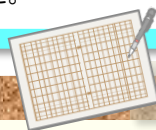
仕事で運転免許が必要なので、早速教習所に通って取得しました。もともと野球部で体力に自信があるのですが、さらに身体を鍛えるために毎日筋トレをしています。

一準備万端ですね。最後に、どんな警察官になりたいと思っていますか。

地域に密着した仕事をしたいと思っています。その中でも女性や子ども、高齢者のような社会的に弱い立場にある人を狙うような犯罪を減らしていきたいです。

インタビューを終えて

人を和ませるやさしい雰囲気をもったSさん。きっと、皆に慕われ、頼られる警察官になれることと思います。初志貫徹し、難関を突破できたことに自信をもって、都民を守ってくださいね！



小論文・作文添削担当専門員からのメッセージ

小論文は、不思議な科目です。

学校の教科に「小論文」はありません。学生時代に小論文に関わる機会といえば「国語の授業でちょっと触れた」とか、総合型(AO)入試に備えて学年全員が模試を受けたとか、そのくらいではないでしょうか。ほとんど学校で教わる機会がないにもかかわらず、入試ではよく出題される、重要な科目になっているのが小論文なのです。

小論文の不思議なところは、これだけではありません。

「小論文」と「論文」の違いを考えてみましょう。学生や研究者が書く「論文」は、自分でテーマを決め、文献を調べたりデータをとったりと、推論や実証・考察を繰り返して得た結論を、その経緯とともにまとめたものです。ですが、受験科目の「小論文」では試験のまさにその瞬間まで、出題内容がわからないこともよくあります。初めて見る問題なのに、その場でテーマを決め、参考にする本も実験するデータも何もなくて(問題によっては、データが与えられている場合もあります)考えて、自分の意見を述べなくてはならないのですから、思えばかなり無茶な科目です。

「習ってもいないことをその場でやる」小論文はそんな無茶な科目なのですから、これから小論文の書き方を学ぼうという方は、小論文に対するイメージそのものを変えましょう。

何のために小論文が出題されているのかを考えれば、どんな風には書けばいいのかがはっきりしてきます。

小論文は、入学試験をはじめ就職の採用試験・昇任試験などで、合格・採用・昇任にふさわしい人物を選考するために出題されています。ですから、小論文で最も重要な評価基準は「その学校や会社や立場にふさわしい人物かどうか」という点にあります。このことを頭において、小論文学習に取り組む必要があります。どれだけ文章がうまく、あるいは独創的で興味深い内容の答案であったとしても、そこに示されたものの見方・考え方や価値観から浮かぶ人物像が、受験した学校や企業などの理念や目標に沿わない、求める人物像に合わないものであれば、当然ながら落とされるということです。

では小論文は、どのように学んでいけばよいのでしょうか。それは「就職活動のように取り組む」ことです(大学受験でも同様です)。大切なのは、学校・企業等の研究と業界(専攻したい分野)の研究、それに自己分析です。はあとでは、このように市販の「小論文の書き方」のような参考書には書かれていない、さまざまなノウハウをお伝えしていますので、多くの方の受講をお待ちしております。

★お申込みは、はあとホームページから



発行 東京都ひとり親家庭支援センター

はあと

〒162-0823 新宿区神楽河岸1-1セントラルプラザ5階

TEL: 03-5261-8687 FAX: 03-5261-1343

はあと飯田橋

〒102-0072 千代田区飯田橋3-10-3 東京しごとセンター7階

TEL: 03-3263-3451 FAX: 03-3263-3452

はあと多摩

〒190-0012 立川市曙町2-8-30立川わかぐさビル4階

TEL: 042-506-1182 FAX: 042-506-1194

ホームページ: <http://www.haator.jp> ※本事業は東京都から委託を受けて(一財)東京都ひとり親家庭福祉協議会が運営しています。